# 令和７年度　日本大学スポーツ科学部　個人研究費　研究実績報告書

所属： スポーツ科学部　競技スポーツ学科
資格： 准教授
氏名： 谷口　郁生

| | |
|---|---|
| 研究課題名 | 大学の情報教育環境における学修状況改善の検証について |
| 研究目的及び研究概要 | 研究目的：大学における学生の学修環境は、新型コロナウィルス禍におけるオンライン学修環境への急激な傾斜の後、オンライン環境と対面式を主としつつも一部オンライン学修を併用しながらのハイブリッド形式が続けられたが、対面式の従来の授業様式も全面的に再開した後、旧来の授業形態へと逆戻りしてしまった。このような状況下において、初年次教育として実施している基本的な情報教育科目であるコンピュータ・情報リテラシーでは、コロナ禍で培ったオンデマンドコンテンツの活用と対面式授業を融合したアクティブラーニング形式の授業形態へと授業の組み立てを再構築した。また令和6年度から、全学部共通授業支援基盤として、Canvas LMSが導入された。この授業形態において学生の学修状況の変化について検証する。<br>研究概要：まずは現状の大学で提供している情報環境や、学生自身の情報環境（パソコンや、スマートフォン、タブレットなどの携帯端末等）の利用状況について確認し、また授業の進展に伴う、各種授業コンテンツの利用状況が学生の学修状況にどのような変化・影響を及ぼすのかを学生へのアンケート調査等を基に検証する。学生の日常的な学修状況については、Canvas LMSの分析ツール等を用いて総合的に行う。 |
| 研究実績の概要<br>研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等 | 筆者は、本部教学DX戦略委員会委員として、令和4年の発足時から全学での教学DX推進に携わってきた。特に令和5年度に日本大学において全学的に導入することが決まったLMSシステムであるCanvas LMSの選定後、本年度においては各部科校における基本システムの構築と運用の為の基盤形成に注力してきた。Canvas LMSの全学展開において本キャンパスにおける初年次教育としてのコンピュータ・情報リテラシーでの授業への取り組みについても再構築が必要となった。尚、Canvas LMSについては、隔週で開催されている教学DX戦略委員会後に引き続き、LMSワーキンググループにて、現在の進捗状況の報告と今後の展開について密に協議を行っている。<br>さて、これまで本キャンパスで利用してきたLMSはGoogle Classroomであり、Google Workspaceと密接に連携していることから初心者には分かり易いインターフェイスであったが、LMSとしてはあくまでも簡易な機能に留まり、学修履歴の機能がほぼ無い点については致命的なデメリットだった。今回導入されたCanvas LMSは各コースやコースの受講者毎のアクティビティの履歴が採取され、コースの受講履歴としてコンテンツへのアクセス履歴や課題（レポートや小テスト、アンケート等）への解答・回答状況を評定とも併せて確認出来るようになった。学修履歴情報の詳細な分析は、今後に控えるが、これらの学修履歴情報を元に、学生の学修への取り組みを可視化してサポートすることが出来るようになり、今後活用して行く予定である。<br>尚、今回のシステム構築においては、未だいくつか積み残しの課題があり、その１つは昨年度から継続してオンラインストレージシステムであるBoxクラウドとのLTI連携であり、もう１つが動画コンテンツ編集・管理システムの導入である。現在はBoxクラウド情のデータファイルをBoxクラウドでリンク生成等の操作の上、Canvas LMSにて改めて登録し直す必要があるが、LTI連携によってCanvas LMS上でシームレスに取り扱うことが出来るようになる予定である。また動画コンテンツについても編集・管理システムを導入することでより肌理細やかな学修履歴の分析が出来るようになる予定であるが、一部検証用に導入されることになった。この件については既存の動画コンテンツの利用状況と併せて追って報告する予定である。 |